

編集委員会

岩谷 良則*

1. 編集委員会委員(平成22年3月現在)

		担当領域
委員長	岩谷良則(大阪大学教授:理事)	臨床検査診断学
副委員長	戸塚 実(東京医科歯科大学教授)	遺伝子検査学
委員	市原清志(山口大学教授)	検査情報科学
	江本正志(群馬大学教授)	臨床免疫学
	奥村伸生(信州大学教授)	臨床血液学
	河原 栄(金沢大学教授)	病理学
	北里英郎(北里大学教授)	チーム医療学
	熊取厚志(千葉科学大学准教授)	臨床微生物学
	森山隆則(北海道大学教授)	臨床化学
	横井 昭(藤田保健衛生短大教授)	臨床生理学

2. 第2回編集委員会

日 時:平成21年8月20日(木)

午前11時50分~午後1時00分

場 所:東京医科歯科大学 医師学総合研究第
1期棟 カンファレンスルーム第1

出席者:岩谷、江本、奥村、熊取、戸塚、森山

欠席者:市原、北里、横井(昭)、横井(豊)

オブザーバー:三村邦裕理事長、望月泰男事務
局長代理、田中健治氏(宇宙堂
八木書店)

議 題:

1) 学会誌の発行に関する変更

- ・当初、年4回発行予定であったが、諸事情により「年2回発行を基本とし、2年に1回教育機関紹介特集号を発行する」ことに変更す

ることになった。

- ・教育機関紹介特集号の発行に関しては、編集委員会ではなく、日本臨床検査学教育協議会(事務局)が担当することになった。

2) 編集委員会

- ・学術大会開催期間中に編集委員会を開催し、翌年の3月と9月に発行する学会誌の概要を決め、詳細はメール審議で決定することにした。

3) 学会誌の原稿

- ・依頼原稿は、主に当学会学術大会で発表された内容から選んで依頼する。
- ・諸外国の臨床検査学教育や技師制度など、技師教育の参考になる情報を資料として提供する。

*大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻医療技術科学分野 生体情報科学講座 iwatani@sahs.med.osaka-u.ac.jp

4) 委員の辞任と選出依頼

- ・ 横井豊治委員が平成 21 年 6 月 30 日に編集委員を辞任されたため、新しい編集委員の選出を理事長に依頼した。
(平成 22 年 1 月、河原栄教授(金沢大学)が横井委員の後任として選出された。)

5) アンケート調査の結果

- ・ 学会誌の評価は、普通(61%)と良い(34%)で 95%となり概ね良好であった。
- ・ 投稿原稿で充実してほしい区分は、報告(会員校の教育実践活動等の報告)が 42%で最も多く、次に原著(23%)と資料(臨床検査学教育の参考になる資料)(22%)が続いた。
- ・ 依頼原稿で充実してほしい区分は、総説(教育及び育成に係る総説)が 45%と最も多く、次に研究紹介(21%)と学校/研究室紹介(19%)が続いた。

◎ 以下はお寄せいただいたご意見をまとめたものです。

- ・ 教育に特化すべきというご意見と、教育以外に研究(に関する原著)も掲載すべきというご意見の両者がありました。
(編集委員会では、臨床検査学の研究に関する学術雑誌は国内外に多数あるので、この学会誌は臨床検査学の学部及び大学院教育に関

する内容を主とし、研究に関する原著は掲載しないことにしました。ただし、臨床検査学教育施設の教員の研究内容や研究指導方法は研究紹介や研究室紹介等でご紹介いただき、教員間の研究交流も促せるようにしています。)

- ・ 教育や研究指導で工夫していることや困っていることに関する情報交換の場がほしい。
- ・ 卒業生が活躍している分野や新しい職種、そして就職先である企業や病院等の情報を知りたい。
- ・ 卒後教育、臨地実習の実態と内容を知りたい。
- ・ 広い分野で応用できる教育方法論(講義・実習)に関する内容も加えてほしい。
- ・ 青年期の学生への対応や指導方法に関する教育心理学等の内容も加えてほしい。
- ・ 臨床検査の現場とうまく連携している教育施設の内容を紹介してほしい。
- ・ 教育機関と臨床検査の現場との交流ができるような学会誌にしてほしい。
- ・ チーム医療、他職種との連携も念頭においた幅広い医学教育を目指してほしい。
- ・ 教員の交流を促進するため教員採用に関する情報等も提供してほしい。